

モモ「あかつき」の後に収穫される新現地試作系統 「モモ福島12号」「モモ福島13号」「モモ福島14号」

福島県農業総合センター 果樹研究所

1 部門名

果樹 - モモ - 育種・選抜

2 担当者

佐藤 守

3 要旨

本県産モモのブランド化確立による有利販売を図るため、主力品種「あかつき」に続く優良品種の育成に取り組み、1997年および1999年の交雑実生群から食味良好な「モモ福島12号」「モモ福島13号」「モモ福島14号」を選抜した。

- (1) 「モモ福島12号」は、1999年に33-81(「ゆうぞら」×「ちよひめ」)を種子親「ちよひめ」を花粉親とした交雑から選抜された白肉種である(個体番号82-7)。成熟期は8月上中旬で「あかつき」より7日程度遅く、「まどか」と同時期である。果形はやや縦長で果重は220～340gである。玉ぞろい良好で、核割れは少ない。果皮の着色は赤から濃赤色で良好である。肉質は硬めでも果汁が豊富で、収穫後約1日で滑らかな食感となる。紅色素は核周囲中、果肉内は少である。糖度は13～17%で甘味が強い。花粉はある。
- (2) 「モモ福島13号」は、1997年に「あきぞら」を種子親「ちよひめ」を花粉親とした交雑から選抜された白肉種である(個体番号73-4)。収穫期は8月中旬で、「モモ福島12号」より5日程度遅い。着色は赤で全面に着色し、縞は不明瞭となる。果形は円～扁円形で果頂部が扁平で豊満感があり、玉ぞろいも良い。果重は270～350gである。紅色素は果肉内は無、核周囲は少である。肉質は収穫始めの頃は繊維を感じるが成熟が進むと滑らかとなる。糖度は12～15%で、「あかつき」並みの微酸もある。核は短楕円で「あかつき」(楕円)と比べて扁平である。核割れは少ない。樹上での日持ちが良く、収穫期間は長い。花粉はない。
- (3) 「モモ福島14号」は、1999年の71-26でのセルフ交雑から選抜された白肉種である。71-26は「川中島白桃」×モモ福島1号(「さおとめ」×「あかつき」)である(個体番号84-1)。収穫期は8月下旬で、「川中島白桃」とほぼ同時期。着色は淡いが全面。果形は円形で果頂部が扁平で豊満感があり、玉ぞろいも良い。果重は270～400g、結実初年から肥大良好である。糖度は13～17%で、食味は硬い果実も含め、甘味が強い。肉質は「川中島白桃」より繊維が少なく良好である。紅色素は果肉、核周囲ともに少ない。核は短楕円で「あかつき」と比べて核が大きい。核割れは少ない。果皮は滑らかで雨焼けが少い。「川中島白桃」と比較して樹勢は良好で無袋栽培ができる。花粉はない。



図1 モモ福島12号



図2 モモ福島13号



図3 モモ福島14号

4 主な参考文献・資料

- (1) 平成21年度試験成績概要(2009)